しまねの社会教育だより

vol.18
島根県立東部社会教育研修センター
島根県立西部社会教育研修センター

photo 海士町中央公民館 「ふるまい通学合宿“プチ修行”」

特集 子どもたちに「人間力」を育む 体験活動の充実を!

2014. 12月号

contents

■ 地域を“まるごと”体験する!! 〔海士町教育委員会〕
■ しまねの青少年教育施設で体験する 〔島根県立少年自然の家〕
■ わがまちの社会教育の実践紹介 〔吉賀町・奥出雲町〕
■ 社会教育施設紹介 〔島根県立古代出雲歴史博物館〕

特集 子どもたちに「人間力」を育む 体験活動の充実を！

現在、子どもたちをめぐる状況として「いじめ、ひきこもり、不登校など悩みを抱える児童生徒の割合が高い」「人間関係形成能力、コミュニケーション能力、規範意識等が低下している」「自分に自信がもてない子どもの割合が高い」といった傾向があります。本県では、「自分には良いところがあると思う」と感じる子どもの割合が高い一方、「自分には、良いところがあると思わない」と感じる子どもの割合は低くない状況（2～3割）といわれています。

これらの原因として「直接体験の不足」「生活習慣の乱れ」「希薄な人間関係」が指摘されています。

このような中、今年7月に策定された『第２期しまね教育ビジョン２１』では、子どもたちが魅力ある人間として成長しようとする「人間力」を高める“体験活動”について、次のような方向性が示されました。

○地域の大人や異年齢の子どもたちとの交流を進めるため、家庭や地域と連携しながら、公民館など社会教育施設等での集団活動、ボランティア活動、自然体験などの体験活動の場を設け、そうした体験活動を通して、自分自身の価値を認識させたり、他人への思いやりなどを育んだりします。

○体験活動を行う際は、引き続き、しまねの豊かな教育資源（ヒト・モノ・コト）を活用する工夫を行います。

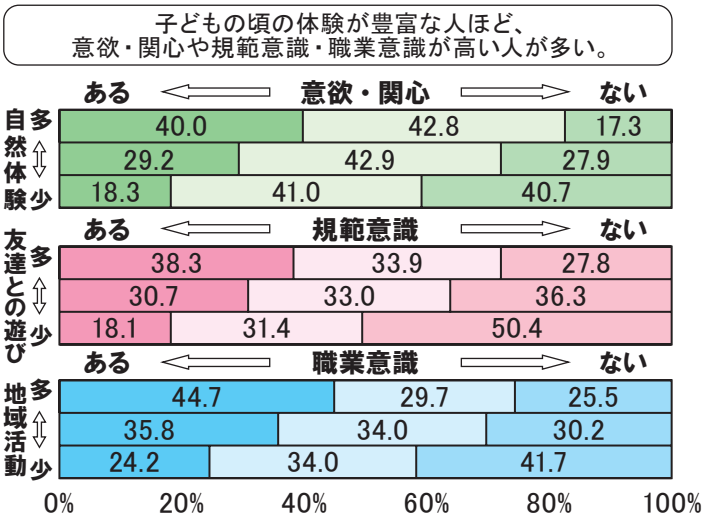
○幼児期からの体験活動を通じて、身近な動植物に接すること等により、生命の尊さに気づき、大切にする心情を養うことや、食育などを通じて、自分が動植物の命をいただいていることを感じる心を育みます。

■直接体験することの意義と効果

平成２５年１月の中央教育審議会答申『今後の青少年の体験活動の推進について』によると、体験活動は教育的効果が高く、特に幼少期から青年期まで多くの人と関わりあいながら体験を積み重ねることにより、「“社会を生き抜く力”として必要となるコミュニケーション能力や自立心、主体性、協調性、チャレンジ精神、責任感、創造力、変化に対応する力、異なる他者と協働したりする能力等の基礎的な能力を育む」ことができるとしています。

また、平成２２年の国立青少年教育振興機構の『子どもの体験活動の実態に関する調査研究報告書』によると、子どもの頃の体験が豊富な人ほど、規範意識・職業意識・人間関係能力・共生感・文化的な作法や教養・意欲や関心・自尊感情（自己肯定感）が高い傾向にあることがわかっています。

右の図は、子どもの頃の体験活動の経験が、成人後の意欲・関心・規範意識・職業意識に与える影響を示したグラフです。



主な質問項目

【意欲・関心】
・もっと深く学んでみたいことがある
・経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい

【規範意識】
・交通規則など社会のルールは守るべきだと思う
・電車やバスに乗った時、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う

【職業意識】
・自分にはなりたい職業や、やってみたい仕事がある
・できれば、社会や人のためになる仕事をしたいと思う

独立行政法人国立青少年教育振興機構『子どもの体験活動の実態に関する調査研究』報告書　平成22年10月

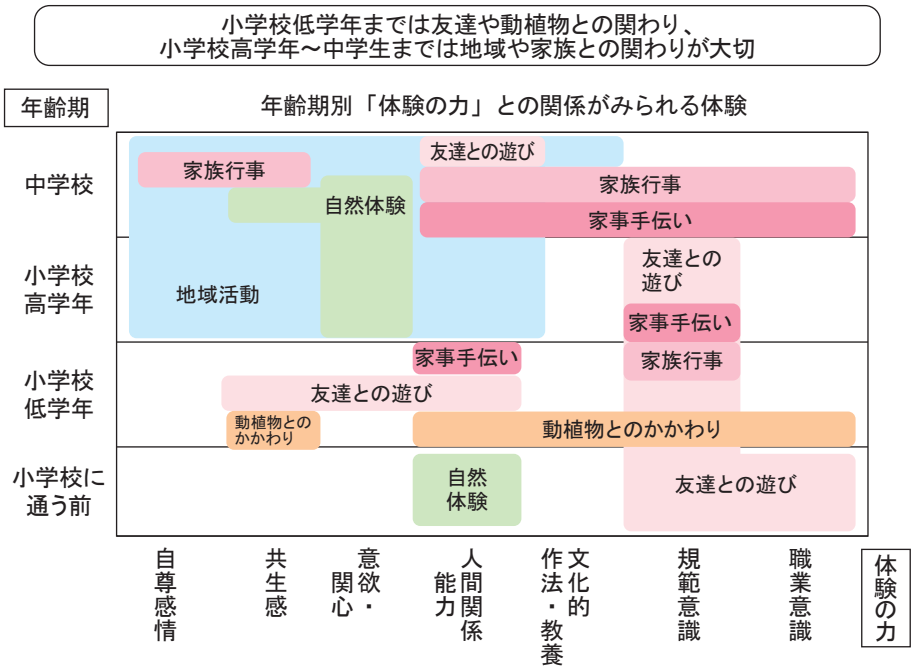
島根県では、家庭や地域との連携を図りながら、青少年教育施設等において意図的・計画的、継続的に「体験活動」の実施をすすめています。
特集では『第２期しまね教育ビジョン２１』をふまえ、中央教育審議会の答申や国立青少年教育振興機構の研究報告書等から、体験活動の重要性や意義について紹介します。

■子どもの発達段階に合わせた体験活動

地域の自然・歴史・文化とふれあう体験活動や伝統行事などへの参加が子どもたちの豊かな心を育みます。学校・家庭・地域で体験活動を実施する際には、子どもの発達段階に応じて、どのような体験が効果的であるのかを明らかにして、取組を進めていくことが望まれています。

下の図は、子どもの発達段階別の「体験の力」（多様な体験を通じて得られる資質・能力の総称）の関係を表したものです。このように、発達段階に合わせた体験活動を行うことは、子どもたちの育ちにとって効果的であるといえます。

効果的な体験活動を実践するために、今後、体験活動を計画される際のひとつの視点として参考にしてみてください。



独立行政法人国立青少年教育振興機構『青少年の体験活動の実態に関する調査研究』報告書（平成21年度調査）より作成

■社会教育の出番!!　社会教育施設等でつくる体験活動の場

子どもたちへの直接体験の機会と場の充実のため、島根県では、学校と連携した青少年の長期宿泊体験活動の支援や、県立の社会教育施設や公民館等における青少年を対象とした体験活動を推進しています。

地域を“まるごと” 体験する!!

■島の未来を担うひとづくり

海士町では、“人間力”・“連携”をキーワードに保育園から高校までの“連携教育”によって「人間力溢れる子どもの育成」を教育目標に掲げています。

何とどう出会い、かかわっていくかを分析・検討したうえで、子どもたちの成長の段階において必要な体験活動を、学校･家庭･地域が連携して行っています。今回は小学４年生・小学校高学年・中学２年生で実践されている体験活動を紹介します。

海士町“人間力マップ”

■生活体験・自然体験から育まれるモノ

in〈ひたる〉 小学４年生

地域にひたる　２泊３日の『ふるまい通学合宿』

行動力　連携力　受容力

■通学合宿を通して他校の友達と仲良くなったり、子ども・親・地域のつながりを深めたりする。
■集団生活や地域の方との関わりを通してあいさつやマナーを身につける。

町内2校から参加した子どもたちは、地域の人に手伝ってもらいながら家を離れ食事をつくったり、もらい湯に地域へ出かけたりする活動を通して体験を積み重ねます。

最終日は、プチ修行のあとに「あいさつ」についての話を聴きます。子どもたちにとって、これまでの自分をふりかえり、自分自身を見つめ直す時間となっています。

また、子どもを受け入れた地域の人間関係の再構築のきっかけにもなり、地域みんなで子育てを行おうという意識を高めることにもつながっています。

about〈知る〉 小学高学年

海士の大自然を知る“非日常の体験” 5泊6日の『アドベンチャーキャンプ』

忍耐力　連携力　自然との共生力　感謝の心

■困難にぶつかっても、あきらめずに最後まで頑張り、乗り越える力を育てる。
■異なる意見も尊重しながら、チームワークを創り出していく力や、他の人と協力しながら行う姿勢を育てる。
■自然環境を守り、自然からの恩恵を活かしながら生きていく力を育てる。
■ありがたいと思う感謝の気持ちを育てる。

子どもたちは、テント・トイレを設営し、３食を自分たちで捕って、つくって、食べて、片付けて、自然の中で生活します。

また、イカダをつくり、往復6㎞のイカダレースを行います。一人ではできないことも協力して取り組み、失敗や成功の体験を通して子どもたちは成長します。

中学2年生

特別な体験ではなく“日常の生活体験”
6泊7日の『普段の生活学校』

行動力　忍耐力　感謝の心　連携力

■職場体験を終え、疲れた状況でも炊事や洗濯などの日常の家事を自分で行い、生活技術の習得を図るとともに、自分のことは自分で行う態度を身につける。
■家族への感謝の気持ちと家族の一員としての自覚を高める。
■集団生活を通して協力する力を身につける。

『普段の生活学校』は、「キャリア教育」と「社会人体験」の事業が一体化して行われています。海士町には、中学を卒業すると島後や本土に進学し島を離れひとりで生活する子どもがいます。『普段の生活学校』では、中学生のうちに社会人としての生活を体験し、自分のことは自分でするという心構え・あいさつ・時間を守ること・整理整頓・公共の場でのふるまい方を学ぶことをねらっています。

感　想

■わたしは、イヤな気持ちが80%、楽しさが20%くらいでした。一週間がすごく長く感じて早く帰りたかったです。疲れたのに、毎日同じことをやっている親はすごいなと改めて感じることができました。今までは「手伝って」って言われてからしかやらなかったけど、これからは、自主的に手伝えるようになりたいです。（生徒）
■親は家でイチイチうるさいけど、イチイチ言ってくれることはちゃんと自分たちのことを見てくれているってこと・・・・ちゃんと感謝しないといけないと改めて思いました。私は、調理が苦手で何から取りかかってよいかわからず困りました。しかし、日が経っていくうちにどんどん料理ができるようになってすごく嬉しかったです。5日間で自分ができなかったことができるようになって良かったと思っています。（生徒）
■自分の思い通りにならないことも多くある中で、どのように対処していけばいいかひとつの気づきになったのではないでしょうか。一週間を終え帰宅した時「疲れた。大変だった。」の声が聞かれましたが、それでも少し大きくなって帰ってきたように感じました。（保護者）
■親も子どもに負けないように頑張ろうと思います。（保護者）

for・with〈貢献〉

自分たちの地域にある課題に正対することで、地域の一員として地域に貢献したり、地域を大切にしたりできる心を培っていきます。

高校生

子どもたちは、学校・家庭・地域という日常的な空間と自然の中や社会教育施設といった非日常的な空間での体験をくり返しながら、“社会を生き抜く力”を身につけていきます。地域や社会の一員として地域に貢献する“人づくり”は、社会教育だからこそできることではないでしょうか。

しまねの青少年教育施設で体験する 県立少年自然の家の事例

県立少年自然の家と県立青少年の家は、県内外の学校・団体の体験活動の実践の場として利用されています。その中から小学校のカリキュラムの一環として行われた、３泊４日の宿泊体験研修の活動について紹介します。

■自然に親しみながら集団をつくる４日間の体験活動

火おこし体験

マイギリを使って火をおこすことで達成感を味わいます。友達と協力して火種をおこす作業は、連帯感を深めます。

昔の人々の生きる力にふれ、生きるための工夫に気づくことをねらっています。この火種を“友情の火”として、野外炊飯やキャンプファイヤーの活動に使用します。

やぐらづくり体験

声をかけあい、協力し合って丸太や板を運び、ロープを縛って自分たちだけのやぐらをつくりあげます。やぐらづくりは、ひとりひとりが見通しをもって、自分の役割を発揮して作業を進めなければできあがりません。

つくり上げる中で、連帯感が生まれ、協調性を育みます。自己有用感を実感できる活動です。

やぐらは、冒険の森や肝試しのスタート地点や自由時間の遊び場など、“創造の場”となります。

野外炊飯活動

火おこし体験でおこした火を使って、かまどと羽釜で調理をします。野菜の皮をむいたり切ったりしておかずを作り、羽釜でご飯を炊きます。

炊飯の回数を重ねることにより、作業もスムーズになり、協力しあって活動に取り組むことができます。

自分でやってみたことによって達成感がうまれ、自立心を高めることにつながります。

保護者の感想

- ■臨機応変に対応することや、友達と協力してやり遂げる大切さ、大変さを実感し、成長したと思います。
- ■野外活動を通して、自分が仲間から必要とされ頼られている喜びと自信、相手を思いやる気持ちを体得したと思います。
- ■自分のことは自分でするようになりました。料理に興味が出てきて、帰ってきてカレーを作りました。

青少年教育施設を活用することにより、より多くの子どもたちが「ねらい」を達成するための有効な体験活動を行うことができます。

県内の青少年教育施設を、子どもたちが自然に親しんだり、人と力を合わせる喜びを感じたり、あいさつや整理整頓など基本的な生活習慣を身につけたりする直接体験の機会や場として、積極的に活用してください。

「去年と同じ」ではなく、地域や子どもたちの実態を考えた「ねらい」を達成するための方法や手段をぜひ県内の青少年教育施設に相談してみてください。

わかまちの社会教育の実践紹介

吉賀町『人権同和教育へのきっかけづくり』～身近なところから考えよう♪～

六日市公民館　主事　向井　恵

「人権」と聞くと、難しい・堅苦しいものと感じる方もおられるのではないでしょうか。六日市公民館では人権講演会などへ積極的に参加する方が増えるように、無理なく・楽しみを交えながら行う「人権研修会に参加しようと思える人づくり事業」を取り入れていくことにしました。

子ども達には平和への願いを込めたペイントツリーづくりを、高齢者には自分の趣味の俳句や絵手紙づくりを取り入れるなど、幅広い年代の方に人権について一緒に考えてもらいながら作品作りを行いました。そして、その作品を文化祭などで展示して来場者に見てもらいました。

楽しみや自分の趣味などを通して、人権について考えることで、地域の方もより身近に感じ「こういうことでも人権について考えることになるんだ」という発見につながりました。また、作品にすることで見る側もより受け入れやすかったのではないかと思います。

これらの事業を通して、日頃行っている事業も公民館が意識することで、人権の事業になることに改めて気づかされました。今回の活動は、きっかけにしかすぎませんが、これをスタートにステップアップしていけるよう取り組んでいきたいと思います。

公民館主事さんの工夫次第で“趣味・教養の講座”も地域の教育力UPの事業に変身ですね。

（編集スタッフ）

奥出雲町『ママカメHAPPYプロジェクト』～ママが幸せだったらきっとみんな幸せ～

ママカメHAPPYプロジェクト実行委員会

「母親同士が楽しくつながっていたら、きっともっと、いろんなことがうまくいくんじゃない？」。「お母さんたちで集まって女子会をしたらどうかな？」きっかけは、保護者と小学校の先生との雑談からでした。そんな発想が形になり、『ママカメHAPPYプロジェクト』がスタート。月に2回、全保護者に連絡をして、おいしいおやつとコーヒーを用意してのおしゃべり会をしています。

《ゆる～く、楽しく、つながろう》をテーマに、学校や公民館を会場にして、おたのしみ会をしたり、時にはパパと子どもも参加してのスペシャル企画をしたり…。昨年末からは隣の小学校のママたちも誘って、ますますにぎやかに活動しています。

小さな地域の中でも、意外とつながる機会の少なかった親同士が、みんなが気軽に集まれるこの会を通して、「今まで話したことがなかった人と仲良くなれた。」「同じような悩みをもっているんだとわかって安心した。」などの感想が寄せられています。そして、つながることで子育てにも楽しさや余裕がうまれ、それが子どもたちやPTAの活動にもよい影響を与えているのを感じます。新しいつながりの場として、今年で3年目を迎えました。興味のある方は、ママカメHAPPYプロジェクトブログにアクセスしてみてください。

http://ameblo.jp/mamakamehappy2012

小さな地域で“ゆる～く、楽しく、つながろう”とはじまった取組が、これからしまねのあちこちの地域へと広がっていけばいいなぁと感じます。

（編集スタッフ）

島根県立古代出雲歴史博物館

「ほんとの、しまね」を見に行こう
何度でも来館したくなるような、人・物・情報の交流拠点

すべての人が自らの興味・関心により、自発的に、楽しみながら学べる学習の場として、島根県立古代出雲歴史博物館は位置づけられています。「しまねの歴史がよくわかる博物館」として、当館では主に、展示・交流・普及の事業を行っています。

学校や公民館等で利用していただくため、館内見学時に取り組めるプログラムを用意しています。また、お住まいの地域に、学芸員を講師として派遣します。

藍染め体験でつくったハンカチ

博物館でひたる 歴史・文化

島根の歴史や企画展に関連した講座やガイダンスを行っています。常設展ではボランティアによる展示解説も行っています。

また、みなさんのご希望に応じて、「まが玉づくり」、石膏を使った「銅鐸づくり」などの古代体験や「藍染め」体験ができます。

まが玉づくり体験でつくったまが玉

みなさんの地域で古代体験

みなさんの地域の公民館等の講座やサークル活動に学芸員を派遣します。島根の歴史や文化・文化財についての歴史講座や古代体験講座に学芸員がうかがいます。これらの体験活動等については、気軽にご連絡・ご相談ください。

最近の出前講座のテーマ

歴史のプロが教えます！

- 出雲の青銅器文化と弥生時代
- 出雲大社の遷宮 ～その歴史と意味～
- 尼子の興亡について
- 出雲の荒神信仰

特集展「尾道松江線発掘物語」

平成27年春に全線開通する中国横断自動車道尾道松江線の発掘調査で出土した数多くの文化財を、島根と広島両県からよりすぐって展示します。

開催期間
2014年12月26日（金）～2015年2月22日（日）

島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo
出雲市大社町杵築東99番地4
TEL: 0853-53-8600 FAX0853-53-5350

編集スタッフから

公民館祭りに出かけていったわが子が、暗くなった頃にとても興奮して帰ってきた。こちらの心配はよそに、祭りで体験してきたことを勢いよく話してくる。「お化け屋敷に友達といったら、とてもおもしろかった。しかも、お化けに弟子入り（手伝い）を志願したら、快くOKしてもらった。お化け屋敷の運営（呼び込み・お化け役・片付け）を“はりきって”手伝ってきた。」「子どもだけど、させてもらえた」「ありがとう・助かったよって言ってもらえた」と目を輝かせている。「疲れたけど、楽しかったよ。明日もまた手伝いに行ってくる」どうやら本物だ。

家庭や学校以外の場で“役割があり主体的に参加する”“親や先生ではない地域の大人と一緒になにかに取り組む”体験が、こんなにも子どもの心を動かすのだと改めて感じたひとときだった。

東部社会教育研修センター
〒691-0074 出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F
Tel.（0853）67-9060 Fax.（0853）69-1380
URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/
E-mail: tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター
〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみーる3F
Tel.（0855）24-9344 Fax.（0855）24-9345
URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/
E-mail: seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

第19号は3月発行予定

この印刷物は古紙パルプ配分率70%以上の用紙を使用しています。